

令和4年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・4年生、6年生は書く領域の正答率が前年度に比べて上がった。
- ・漢字の読み書きは、学習効果測定の結果から、十分な定着が見られた。
- ・目的意識をもって文章を書く児童が増えた。
- ・話題の中心や内容を捉えて聞き、聞き取ったことをメモすることができる児童が多い。

(2) 課題

- ・語彙や基本的な文法が身に付いていない児童が多い。読書のジャンルに偏りがあり、学年に応じた内容の本を手にする児童が少ない。
- ・話し合い活動をするとき、相手の話を聞いて、自分の考えと比べながら深めることに難しさを感じる児童が多い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	正答率は、目標値を7.1ポイント上回った。 書く領域は全項目で目標値を下回り、特に自分の考えを、事例を挙げながら説明する文を書くことができていない。	/	/
第5学年	目標値と同程度の正答率だった。書くことに苦手意識を感じており、書く領域の全ての項目で目標値を下回っていた。	正答率は目標値を4ポイント上回ったが、書く領域の問題は項目によっては目標値を20ポイント以上下回ったものもあった。	/
第6学年	正答率は、目標値を6.9ポイント上回った。 書く領域は目標値を上回ったが、正答率は低かった。	目標値と同程度の正答率だったが、書く項目は全国平均値を5ポイント下回った。	全ての項目で目標値を上回った。中でも、書く項目は目標値より7ポイント上回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書き取りや基礎的な言葉の習得はできている。 ・国語辞典や漢字辞典の使い方は正答率が低く、定着していない児童が多いことが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文や説明文の内容を読み取ることはできている。 ・文章を書く領域の問題の正答率は50%程度である。文章を書く経験が不足しているからと考えられる。 	<p>指定された長さの文章を書くことができた児童の割合が50%を下回った。書き方が分からない等の理由で書く活動に対する意欲が低いと考えられる。</p>

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な漢字の読み書きや言葉の学習は、十分に児童に身に付いている。一方で段落のまとまりを意識して書いたり、文章構成を捉えたりすることに課題がある。	物語文で登場人物の心情を読み取ることはできる。説明文の読み取りでは、読み取ったことを自分の考えと結び付けたり、要約したりすることは苦手である。そのため、自分の意見や考えを書くことに課題がある。	自分の思いや考えを表現する問題は正答率が低くなっている。無回答が多いことから、苦手意識を感じる児童が多いと考えられる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 語彙を習得させるために、読書の時間を確保し、身近なことを表す語彙の量を増やす。 自分で感じたことや考えたことを明確にし、順序立てて話せるように、事柄の中心を明確にできるようにする。 主語述語を対応させるために、一文を短く書く指導を繰り返す。 自分が書いた文章を読み直す時間を設定し、推敲する習慣が身に付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書く力を向上させるため、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> すすんで読書を行う児童をさらに増やし、学習の中で獲得した語彙を生かすことができるようにする。 物語の本を手に取り、声をかけていく。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で感想を書く活動などを取り入れる。 分からない字や間違えた字は、国語辞典、漢字辞典を使って調べる習慣が身に付くようにする。辞書の使い方と語彙が習得できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く機会を増やすことができるように、学習感想などを書く機会を増やす。 自分の主張とその根拠を区別して文章を書くように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって取り組むことができるように、単元ごとに学習計画を立て、児童が学習する目的を明確にもつことができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 論の展開や筆者の主張を読み取る指導を繰り返し、文章全体の構成や要旨をつかむことができるようにする。 家庭学習では、一文字ずつではなく熟語として覚えたり、自分の苦手なところを何度も繰り返したりするなど、個々にあった学習方法を伝え、取り入れることができるようにする。 国語辞典を活用したり、すすんで読書をしたりして、優れた言葉や文に触れ、語彙力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手意識、目的意識を持ち、伝えたいこととその理由が明確になるように文章の構成を意識して、書くことを指導する。 書いた文章を友達と交流する活動を増やし、互いのよさを認め合ったり、上手な書き方を取り入れることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材開発や授業での発問の工夫を行い、分かる楽しさを味わうことができる工夫を行っていく。 学年相応の図書を推薦したり、他教科での学習に関連する本を紹介したりするなどして、読書の習慣を身に付けることができるようにする。 書いた文章を友達と交流する活動を増やし、書き上げた達成感を感じることができるようにする。

令和4年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・コロナ禍もあり、実際に見学に行くことはできなかったが、ICTを活用したり、電話でのインタビューをしたりすることで、学習の定着率が高まった。
- ・資料から読み取れることは何か、そこから自分がどう考えるかを分けて考えることで、事実をつかむ力、自分の考えを表現する力の両方に成長が見られた。

(2) 課題

- ・資料を比べたり、そこから分かることを考えたりする力が十分に定着できていない。
- ・他の地域や国との関わりを身近なものとしてとらえることができていない。
- ・高学年になるにつれて、見学や体験がしづらいこともあり、社会科の学習自体への意欲が下がり、知識の定着が不十分だった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	全体としては目標値を3ポイント上回った。また、前年度より4ポイント上回った。	/	/
第5学年	全体としては目標値を1ポイント上回った。基礎は2ポイント上回り、活用は1ポイント下回った。	全体としては目標値を1ポイント上回った。また、前年度より2ポイント上回った。 (第4学年時)	/
第6学年	全体としては目標値を4ポイント下回った。基礎・活用別では、基礎は4ポイント下回り、活用は3ポイント下回った。	全体としては目標値を1ポイント下回った。基礎・活用別では、基礎・活用ともに1ポイント下回った。 (第5学年時)	全体としては目標値を1ポイント上回った。基礎・活用別では、基礎は2ポイント上回り、活用は2ポイント下回った。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より2ポイント上回った。 地図記号や方位などはおおむね読み取れていた。	目標値より3ポイント上回った。 資料を読み取り、考えることもおおむねできた。	目標値より5ポイント上回った。 「買い物しらべ」の单元など、高い意欲が見られる单元が多かった。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>5年生は、目標値より2ポイント上回った。</p> <p>6年生は、目標値より5ポイント下回った。</p> <p>日本の気候や北方領土についての理解ができていない。</p>	<p>5年生は、目標値より1ポイント下回った。</p> <p>6年生は、目標値より3ポイント下回った。</p> <p>農業や漁業の変化やその理由について資料から考えることができていない。</p>	<p>5年生は、目標値より1ポイント下回った。</p> <p>6年生は、目標値より3ポイント下回った。</p> <p>地理的内容や貿易相手国についての関心が低かった。</p>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 副読本や地図帳、絵地図などの資料をさまざまな場面で活用する場を設定する。 自分で必要な情報を探し出せるよう指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料からわかることをノートにまとめたり、話し合ったりできるようにする。 単元のまとめ方を新聞やタブレット、すごろくなど、多様な方法で行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ校外学習や見学などの体験的活動が実施できるようにする。 タブレットに写真を送り、その写真に書き込みを入れる活動などでも学習への意欲を高めていく。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 教科書や地図帳、資料集をさまざまな場面で活用できるようにする。 調べたことを以前学習したこととつなげられるよう印を付け、振り返る場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を比較・総合してわかったことをノートにまとめたり、話し合ったりすることができるようにする。 学習したことをまとめる際に、教科書・地図帳・資料集などから自分の伝えたいことを表す資料が選べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 政治の学習では、模擬選挙を行うなどの体験的な学習を行う。 タブレットを活用し、他の人の意見がわかる機能を使い、話し合い活動を行うことで学びの意欲を高めていく。

令和4年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・進捗や指導方法について、その都度情報を交換し、個々の児童の習熟についても確認することができた。
- ・個に応じた指導の時間を確保することができた。

(2) 課題

- ・少人数指導の展開の仕方についてさらに検討を重ね充実させていく。
- ・コースごとの実態に応じた課題の設定を、さらに検討していく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較） △=上昇 ▼=下降

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	数と計算（繰り上がりのあるたし算） ▼	測定（長さ・重さ） ▼ 図形△	図形▼他の領域△ 関心意欲が高い数値。 記述による回答が、区や全国を大きく上回る。
第5学年	数と計算（分数） ▼ データの活用（折れ線グラフと表） △	数と計算（分数・小数） ▼	どの領域も区や全国を上回る。観点別を見てもすべて上回る。
第6学年	数と計算（分数、小数） ▼ 変化と関係（割合） ▼	数と計算（分数・小数） ▼ 変化と関係（割合） ▼ 図形△	基礎基本▼観点別では、すべての領域で▼特に図形、数量関係が区や全国を下回る。技能・関心意欲も全国より下回る。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的には目標値と同程度か上回っている。測定領域では区や標準値を上回っているが、数値（測定値）と具体物を手に持った時や見た時の感覚が一致していないと考えられる。生活の中で、身の回りの量を自分の量の単位としてとらえたり、実感したりすることができていない。	区や全国と比較して同程度か上回る結果を示している。しかし、記述による回答は下回っている。筋道を立てて考え、根拠を明確にして説明することが困難である。	前年同学年と比較して、全般的に上回っている。具体的な操作や作業、ペアやグループでの活動を適度に用いるなど、様々な学習方法を実践したり、教材教具を工夫したりすることで、自分なりの考えをもち粘り強く解決することができるようにしてきた結果と考える。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>分数や小数の既習事項の理解が不十分である。性質や仕組みが整数と異なり、それぞれのよさを感じて学習できていない。既習事項に立ち戻った練習が必要である。</p>	<p>問題場面を把握し、実際の生活場面を想起しながら問題と関連付けて解決したり、図や表に表して捉えたりすることが難しい。</p>	<p>算数の学習自体に困難さを感じている児童が多い。また、論理的に考え、解決に導くことが難しい。解決に用いる既習事項を引き出したり、筋道立てて考えをすすめたりして最後までたどり着くことができていない。</p>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・具体物や半具体物を操作したり、絵や図に表したりして、身体と頭で問題解決ができるようにする。 ・既習事項を、日常の場面や他教科での学習に意図的に用いることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを説明したり、友達の考えを聞いて考えたりする場面を設定する。 ・計算の仕方や方法を児童が考え説明することを通して、思考力や判断力、表現力を高めることができるようにする。 ・児童が自分の考えを振り返ったり整理したりして、筋道を立てて考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りをし、それを教師が評価し価値づけることで、考える楽しさや大切な考えに気付くことができるようにする。 ・様々な教具を用いたり、学び方を工夫したりすることで、学ぶ楽しさを味わうことができる学習を展開する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・具体物や半具体物を操作したり、絵や図に表したりして、身体と頭で問題解決できるようにする。 ・身の回りのものから自分で選び何度も測定することで、量の感覚を身に付けることができるようにする。 ・既習事項を、日常生活の場面や他教科での学習に意図的に用いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項と関連付けて考えることで、見通しをもち解決をすすめる指導を展開していく。 ・自分の考えを説明したり、友達と検討したりする場を多く設定し、思考力や表現力を高め、理解を深めていく。 ・児童の発言に対して問い返しをすることで、自分の考えを振り返ったり整理したりして、理解を深めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コースごとの実態に合わせた課題を設定したり、学習方法や教材を工夫したりする。 ・一人でじっくりと考える場を設定する。 ・どの既習事項を用いればよいか考えることができるようにする。 ・学習の振り返り（学習感想）をし、それを教師が評価し励ますことで、次時への意欲を喚起し学ぶ楽しさを味わうことができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・単元ごとに前学年に立ち戻った練習をしたり既習事項（例：分数の通分約分と倍数約数など）と関連付けて考えたりする場を設定する。・既習事項を、日常生活の場面や他教科での学習に、意図的に用いていく。	<ul style="list-style-type: none">・既習事項を活用して課題を解決できるよう、見通しをもつ場を設定する。・自分の考えを説明したり、友達の考えを自分の考えと比べながら聞いたりするなど、目的に応じてペアやグループ活動を効果的に取り入れるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・コースごとの実態に合わせた課題を設定したり、学習方法や教材を工夫したりする。・一人でじっくり考える場を設定するとともに、聞き合うことで学習の楽しさを実感できるようにする。・どの既習事項を用いればよいかを自ら判断し、考えることができるようにする。・学習の振り返りをし、それを教師が価値づけることで、考える楽しさや大切な考えに気付くことができるようにする。

令和4年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・実験活動に取り組むことを中心に授業を展開していることで、児童の理科学習への興味や関心が
高まった。

(2) 課題

- ・結果から考察し、結論を導き出すことが苦手である。
- ・自分の考えを表現するスキル（言葉、図など）が育っていない。
- ・植物との関わりが不足していることから、自然事象への関心及び知識理解が乏しい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	平均正答率が目標値に達した。しかし、磁石の性質の項目は目標値より10ポイント以上下回った。	/	/
第5学年	平均正答率が目標値に達した。しかし、電気のはたらき、月と星の項目は目標値より5ポイント下回った。	平均正答率が目標値に達した。しかし、磁石の性質の項目は目標値より5ポイント下回った。	/
第6学年	平均正答率が目標値を下回った。流れる水の働き、物のとけ方の項目は、目標値より10ポイント下回った。	平均正答率が目標値を上回った。天気と気温と電気のはたらきでは10ポイント以上目標値を上回ったが、雨水のゆくえでは、10ポイント以上下回った。	全ての項目で目標値を下回った。中でも植物の育ち方の項目は目標値より10ポイント下回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの問題で昨年度よりも正答率を上回るものが見られる。 ・実体験を伴って定着するような問題への正答率が低くなっている。 ・実験を通して知識を定着できるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、昨年度よりも正答率が高い。 ・学習単位によって思考を深める学習が十分に足りていなかったようである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率は総じて平均よりも高い。 ・日々の生活の中で児童が疑問に感じていることが、理科的事象と結びついていることに気が付いていないことが考えられる。学習導入に実生活とのつながりをより意識させる必要がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 5年生は目標値をわずかに下回った。問題別に分析すると月と星の正答率が低い。 ・ 6年生は目標値を4ポイント下回っている。天気の変化や植物の花とつくりの正答率が低い。 ・ 自然事象に関わる単元が苦手な傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5年生は目標値を3ポイント上回った。問題別に分析すると電気のはたらきの正答率が低い。 ・ 6年生は目標値より5ポイント下回っている。問題別に分析すると、物のとけ方や電流のはたらき流れる水のはたらきの正答率が低い。 ・ 問題傾向より、実験結果からわかったことなどを記述でまとめることに、苦手意識が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5年生はわずかに目標値を下回った。問題別に分析すると、自然の中の水の正答率が低い。 ・ 6年生は目標値を大きく下回った。問題別に分析すると、流れる水のはたらきの正答率が低い。 ・ 実験など、体験的授業を展開することが難しい自然現象に関わる単元への苦手意識が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な昆虫や植物は年間を通して計画的に観察を行い、季節の変化を考え、からだのつくりへの理解を深めていく。 ・ 事象を実際に体験する活動を増やし、実体験から物事を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験の際に、事象についての予想を立て取り組むとともに、結果、考察を通し結論を導き出せるよう指導する。 ・ 3年生は差異点や共通点を基に問題を見出すこと、4年生は既習内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想することに重点をおいて指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が様々な事象に関心を持ち、意欲的に学習に取り組むために、実験や観察活動の充実を図る。 ・ 観察・実験が難しい単元では映像や示範実験を通して理解を深めていく。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験や観察を通して、知識や技能への理解を深める。活動が体験的に終わるのではなく、児童の知識となるように、問題解決の過程を意識した学習を行う。 ・ 理科の実験器具の使い方について、指導の中で適切な使い方が定着できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験や観察の際、事象について予想をたて、実験に取り組むようにする。 ・ 実験結果から考察をする活動の際、十分な時間を確保する。問題解決の過程で用いる、5年生の「条件制御」や6年生の「多面的な考え」など「考え方」を整理し、結果を基に考察する時間を十分にとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の内容や生活体験を手掛かりに、実験や観察を取り入れることで、児童が主体的に問題解決に取り組む意欲をもつことができるようにする。児童の実態から、実験や観察が難しい単元を苦手とする傾向が見られるため、タブレット端末を使い、動画や画像を取り入れた学習指導を行う。

令和4年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・一人一つの植木鉢で責任をもち植物を育てる経験は、意欲的に取り組むことができた。
- ・1年生と2年生で実施した学校探検は、児童にとって充実した活動となった。

(2) 課題

- ・ICT機器を導入した学習をすすめたが、十分に活用することはできなかった。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第一学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検や花を育てる活動を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くことができるようにする。 ・学校内や多摩川河川敷に出かけて遊ぶ場を設定し、生活上必要な習慣や技能を身に付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭探検や学校探検を通して、身近な人々、社会及び自然と関わる機会を多くつくり、自分とどのような関係があるのか意識できるようにする。 ・自分自身の生活について考え、絵や文、言葉などで表現できるように、適切な助言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々、社会及び自然に、自分から接近できるよう、児童のやりたいことや願いをもって活動できるようにする。 ・児童がやりたいことを実現できた満足感や達成感を味わい、自分のよさや可能性に気付けるよう、児童の実態に合わせた課題設定をする。

(2) 第二学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・町探検や野菜を育てる活動を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くことができるようにする。 ・身近にある物からおもちゃを考えたり、作って遊んだりする場を設定し、動くおもちゃの不思議さ、面白さ、みんなで遊ぶ面白さに気付くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町探検を通して、身近な人々、社会及び自然と関わる機会を多くつくり、自分とどのような関係があるのか意識できるようにする。 ・自分たちの住む町のよさを伝えたい人や内容に合わせて、クイズや新聞、劇などで表現できるように、適切な助言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々、社会及び自然に、自分から接近できるよう、児童のやりたいことや願いをもって活動できるようにする。 ・児童のやりたいことが実現できた満足感や達成感を味わい、自分のよさや可能性に気付けるよう、児童の実態に合わせた課題設定をする。

令和4年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- どの学年も音楽活動全般に意欲的に取り組んでいた。
- 日頃の学習の成果をグループやクラス単位で発表することにより、音楽を創り上げる喜びや達成感、充実感を味わわせることができた。
- 児童の実態に合った教材の設定や様々な学習形態を取り入れることで、個人の基礎的スキルや鑑賞能力の定着を図ることができた。

(2) 課題

- 楽器演奏におけるスキルの習得には、個人差がある。
- スキルが定着していても、曲想にふさわしい豊かな音楽表現ができる児童は少なく、表現することに自信がもてない様子も見られる。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> • 歌唱、器楽、音楽づくりの各スキルを身に付けるために、個人の習得状況を把握した上で、継続的な取り組みやペア学習、必要に応じた個別指導などを取り入れ、習熟度を高めていく。 • 曲の感じや音楽の要素に気付くことができるよう、常時活動での反復練習やICT機器の効果的活用、既習事項と関連付けることで知識の習得を深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 歌唱、器楽、音楽づくりの各活動を通して、どのように表現するかについて思いをもつために、情景を想像したり楽曲の気分を感じ取ったりできるようにする。 • 曲や演奏の楽しさや美しさを味わって聴くために、身体の動きを取り入れる活動や、感じたことを言葉で表現することに慣れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 楽しく音楽活動に取り組むために、発達段階や児童の実態に合った魅力的な教材の設定や、学習の成果を発表したり互いのよさを認め合ったりする活動を取り入れる。 • 友達と協働して音楽活動をする楽しさを感じながら様々な音楽に親しみ、創り上げる喜びを味わうことができるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> • 歌唱、器楽、音楽づくりの各スキルを身に付けるために、個人の習得状況を把握した上で、継続的な取り組みや、ペアやグループ学習、必要に応じた個別指導などを取り入れ、習熟度を高めていく。 • 曲の特徴や音楽の要素を理解するために、常時活動での反復練習やICT機器 	<ul style="list-style-type: none"> • 歌唱、器楽、音楽づくりの各活動を通して、どのように表現するかについて思いや意図をもつことができるようにする。歌詞の内容や曲想に加え、音楽を形づくる要素を感じ取ることができるようになる。 • 曲や演奏のよさを見いだし味わって鑑賞するために、 	<ul style="list-style-type: none"> • すずんで音楽活動に取り組むために、発達段階や児童の実態に合った魅力的な教材の設定や、学習の成果を発表したり互いのよさを認め合ったりする活動を取り入れる。 • 友達と協働して音楽活動をする楽しさを感じながら様々な音楽に親しみ、創り

<p>の効果的活用、既習事項との関連付けをすることで知識の習得を深められるようにする。</p>	<p>視点を明確にして音楽の要素や構造に気付き、その上で自分の考えや感じたことを身体や言葉で表現できるようにする。</p>	<p>上げる達成感を味わうことができるようにする。</p>
---	---	-------------------------------

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱、器楽、音楽づくりの各技能を身に付けるために、個人の習得状況を把握した上で、継続的な取り組みや、ペアやグループ学習、必要に応じた個別指導などを取り入れ、習熟度を高めていく。 ・曲の雰囲気や特徴を捉え、音楽の要素を理解するために、常時活動での反復練習やICT機器の効果的活用、既習事項との関連付けや対比をさせることで知識の習得を深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱、器楽、音楽づくりの各活動を通して、どのように表現するかについて思いや意図をもつことができるようにする。歌詞の内容や曲想に加え、音楽を形づくる要素を感じ取ることで、自ら表現に生かせるようにする。 ・曲や演奏のよさを見いだし味わって鑑賞するために、視点を明確にして音楽の要素や構造に気付き、その上で自分の考えや感じたことを身体や言葉で表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に音楽活動に取り組むために、発達段階や児童の実態に合った魅力的な教材の設定や、学習の成果を発表したり互いのよさを認め合ったりする活動を取り入れる。 ・友達と協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら様々な音楽に親しみ、創り上げる達成感や充実感を味わうことができるようにする。

令和4年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どの学年の児童も、意欲的に活動する児童が多い。
- ・様々な材料や表現方法を経験し、自分なりの表現方法を模索しながら選び取っている。

(2) 課題

- ・美術作品などの鑑賞の機会が少なく、鑑賞活動に親しんだり、作品を深く鑑賞したりすることが難しい児童が全体的に多い。
- ・友達の作品のよいところを見付けたり、よさを認め合ったりする様子も少し見られるが、なかなか声をかけられない児童もいる。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、形や色などに気付き、表し方を工夫して表すことができるようにする。 ・身近な材料や用具を安全に配慮しながら、十分に慣れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品から自分の見方や感じ方を広げたりできるようにする。 ・何を表したらよいか困っている児童に、個別に適切な助言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく表現したり鑑賞したりする活動を通して、つくりだす喜びを味わえるようにする。 ・互いの作品を鑑賞させ、友達の作品のよさを認め合える時間を設定する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、形や色などに分かり、表し方を工夫して表すことができるようにする。 ・身近な材料や用具を安全に配慮しながら、適切に扱えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品から自分の見方や感じ方を広げたりできるようにする。 ・何を表したらよいか困っている児童に、個別に適切な助言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで表現したり鑑賞したりする活動を通して、つくりだす喜びを味わえるようにする。 ・互いの作品を鑑賞させ、友達の作品のよさを認め合える時間を設定する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、形や色などの造形的な特徴を理解し、表し方を工夫して表すことができるようにする。 ・身近な材料や用具を、安全に配慮しながら活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品から自分の見方や感じ方を広げたりできるようにする。 ・何を表したらよいか困っている児童に、個別に適切な助言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現したり鑑賞したりする活動を通して、つくりだす喜びを味わえるようにする。 ・互いの作品を鑑賞させ、友達の作品や美術作品のよさや美しさを認め合える時間を設定する。

令和4年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学んだことを実生活に生かす意識付けを行ったり、家庭と協力しながら課題を行ったりすることで、家庭での仕事に目を向けられるようになってきた。
- ・技能習得に個人差があることを踏まえ、個別指導を行ったところ、主体的に取り組む姿勢が見られるようになった。
- ・ICT機器を効果的に使用することで、手縫いやミシン縫いにおける技能を視覚的に捉えることができ、技能の習得につながった。

(2) 課題

- ・学んだことを実生活に生かす意識付けを行ってきたが、自らすすんで生かそうとする意識はまだ薄い傾向にある。
- ・考えたことや思ったことを、既習事項を使って分かりやすく表現する力がやや弱い傾向にある。

2 授業改善のポイント（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験、実習を通して、実感を伴って理解できるようにする。 ・既習事項を関連付けて考えたり、それを繰り返し活用したりしながら、知識や技能の確実な定着を図る。 ・基本的な技能は、ICTを活用し、視覚的に理解できるようにする。さらに全体で意見を出し合いながら、適切な方法を見いだせるようにする。 ・中学校への系統性を考慮しながら、課題の設定を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けた知識・技能を自分の生活に生かす工夫を考え、学習したことを生活の中で計画的に実践できるようにする。それに加え、家庭生活において、自ら考え課題解決することができるようにする。 ・課題を見だし、その解決に向けて実践した結果を振り返る。自分の考えを伝えたり、友達の見解を参考にしながらよりよくする方法を考えたりする活動を日常的に行い、評価・改善する力や表現する力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な知識や技能の習得には、スモールステップで説明をし、定着させることで達成感が味わえるようにする。その経験を繰り返すことで、最後まで根気強く取り組もうとする態度を育てる。 ・家庭科で学んだことを主体的に実生活に生かせるよう、自ら課題を見だし、解決を図る活動や実践を振り返る活動が充実したものになるようにする。

令和4年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・体育を楽しんでいる児童が増えた。
- ・持久走大会の練習をすることにより、体力向上につながっている。
- ・運動の得意、不得意がはっきりしているが、不得意な児童でも参加し、活躍できるようルールを設定し工夫して行っている。
- ・苦手な児童に声をかけたり、教えたりする児童が増えた。

(2) 課題

- ・取り組む運動が偏り、経験の足りない運動や遊びが多い。学年相応の体力や、運動能力がついていない児童が多い。休み時間や体育の学習でいろいろな動きを経験させていく必要がある。
- ・運動が得意な児童は意欲的に運動に取り組み、苦手な児童は積極的に取り組めず、運動能力の差が開いている。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・走の運動遊びでは、走る楽しさに触れ、走る動きを身に付けることができるように、いろいろな方向に走ったり、いろいろな間隔に並べられた低い障害物を越えたりできる場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び方を工夫して考え、考えたことを友達に伝えることができるようにする。 ・タブレットを活用し、課題解決のために学級全体でよいところや改善点を考え、伝えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びにすすんで取り組むことができるように、成功回数が多くなる簡単な運動遊びを取り入れたり、できたことを称賛したりする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・走の運動では、走る楽しさや喜びに触れ、基本的な動きを身に付けられるように、いろいろな距離でのかけっこやいろいろな姿勢でのスタートができる運動の場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の動きを見て課題を見付け、正しい動きを身に付ける工夫を、友達と伝え合うことができるようにする。 ・タブレットを活用し、課題解決のためにグループでよいところや改善点を考え、友達に伝えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動にすすんで取り組むことができるように、ペアやグループを組み、友達の動きを真似できるような環境をつくる。 ・児童が自ら適した場を選び積極的に運動に取り組めるように、いろいろな難易度の場を設定する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">陸上運動では、正しい動きやルールを理解し、自己の記録の伸びや目標の達成を目指すことができるよう、いろいろな距離のリレーや、いろいろな高さのあるハードル等を設定する。	<ul style="list-style-type: none">自己や相手の課題を見付け、正しい動きを身に付けるために互いに伝え合うことができるようにする。タブレットを活用し、動きのポイントと自己や相手の動きを照らし合わせ、技のできばえや課題を確認することができるようにする。	<ul style="list-style-type: none">運動に積極的に取り組むことができるように、運動の記録をとったり、わずかな変化を称賛したりして、自己の体の動きの高まりに気付くことができるようにする。自分たちで場や用具を考え、運動に取り組むことができるようにする。

令和4年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・ゲームやチャンツ、歌などで繰り返し声を出して、新出語句に慣れ親しむことができた。

・学習内容に合わせて、友達やALT、学級担任との関わり方を工夫することで、児童が自ら伝え方を考えることができた。

・スモールステップで学習計画を立て、活動内容を工夫した結果、外国語を使ってコミュニケーションをとろうとする意欲を養うことができた。

(2) 課題

・正しい発音にこだわってしまったり、リアクションの仕方に抵抗感があったりして、積極的になれない児童が一定数いる。苦手意識をもつ児童への手だてを考えていく必要がある。

・授業後の振り返りがなかなか深まらず、「楽しかった」「難しかった」のような感想で終わってしまう児童が多い。学習のめあてを児童がよく分かるように提示し、自分の活動や取り組み方について振り返り、表現することができるようにする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものの単語の問題や can/cannot を使った文章の正答率が高かった。 アルファベットの識別問題や似た音の単語の聞き取りに関する問題の正答率が低かった。 	(第5学年時)	(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

授業での様子
<ul style="list-style-type: none"> 外国語を話すことに抵抗感がある児童が数名いる。間違えることや、正しい発音を気にしすぎて、発音したり話したりすることに消極的になっている。 遊びやゲームの要素を入れたアクティビティでは、自ら相手に関わり、発音したり話したりして取り組める児童が多い。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で、発音したり書いたりする頻度が高いものは身に付いていることが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物の場面や道案内をする場面など、状況は分かっているにもかかわらず、そこでの正しい表現の仕方や適切 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的な児童が多く、ゲームの要素の強い活動にすすんで取り組む。 発音したり話したりする

<ul style="list-style-type: none"> ・書くことに慣れておらず、アルファベットの読み方や書き方が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・な単語の選択ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を繰り返すことで、できるようになったという自信をもつことができる。
---	---	--

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

<ul style="list-style-type: none"> ・歌やチャンツ、話しながら体を動かす活動を取り入れ、話す楽しさ、コミュニケーションがとれる楽しさを大切にした授業づくりをする。 ・同じ単語や表現を、繰り返し発音したり話したりする経験を積み、外国語で話せた実感を味わうことができるようにする。

(2) 中学年

<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティの内容を検討し、ゲームや遊びの要素のある活動を取り入れて、話すことが楽しいと思える経験を積み重ねていく。 ・発話練習の時間を多く取って、児童が自信をもち外国語を活用できるようにする。 ・授業の初めに学習のめあてを確認し、児童自ら学習内容を意識して取り組むことができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・四線を使った書く指導や似たような音の単語を聞いたり話したりする活動を取り入れ、繰り返し外国語に触れることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーセンテンスを示したり、教師が話し方の模範を示したりして、表現の仕方、伝え方や反応の仕方を指導し、場面に応じて適切に使い分けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を生かして新しい内容の学習ができるようにする。 ・アクティビティを検討し、学習に対する意欲が持続できるようにする。 ・友達に伝えたり、自分で練習したりする時間を取り、繰り返し発音したり話したりしてできたと感じられる経験を重ね、自信をもって活動できるようにする。